

第1学年花組 とうじょう人ぶつに なりきって よもう

—おとうとねずみ チロー 指導者 三神 琴美

単元目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
- 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えたり、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像したりすることができる。
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

全9時間（プロジェクトタイプ×スパイラル型）

子どもの姿と支え方

Choice（第3～5時）

より自分のイメージにぴったりの表現を
考えることができるように、様々な音読を
用いる。

Challenge（第1・2時）

音読のこつや課題を再度
確認し、学習のゴールを設定
することができるように、
これまでの学習での学
びを整理する。

出合い

第1・2時：難しい言葉の意味を確認しな
がら、物語の大体を捉え、学
習のゴールを設定する。

追究

第3～5時：様々な音読を用いて、場面
の様子や登場人物の気持ち
を想像して読む。

第6・7時：音読発表会に向け
て、学習したことを
生かして音読
を工夫する。

振り返り

第9時：単元を振り返る。

「学びに向かう力」が涵養されている姿

言葉のもつよさやおもしろさを実感し、言葉を大切にしようという思いを持つ
ている姿。また、自分なりの思いを持って読んだ経験を生かして、次の学習やこれ
からの読書を楽しもうとしている姿。

Check（第9時）

本単元の学びを振り返り、次の単
元に生かすことができるように、振
り返りの視点を明らかにして、ま
とめる時間を十分に取る。

Creativity（第8時）

自分の考えを整理して表現するこ
とができるように、今までの学習を整理する。また、
友達との意見の違いに注目し、より気持ちを
表している表現は何か自分なりの考えを持
って音読できるように言葉を掛ける。

Critical Thinking（6・7時）

叙述を基にイメージを広げることが
できるように、子どもが考えた読み方の工夫について共感したり、
どうしてそのように読もうと思ったのか問い返
したりする。

Collaboration（第6・7時）

友達との違いに注目し、どうして
そう読んだのかじっくりと考
えることができるように、十分
な時間を確保し、柔軟な活動形
態や場の設定をする。

単元構想の意義

本単元で扱う教材「おとうとねずみチロー」は、おばあちゃんからのチョコキを楽し
みに待つ末っ子ねずみチローの気持ちや行動を中心に書かれている物語である。チ
ローの会話や行動には、気持ちの変化が素直に表現されており、人物の行動を具体的
に想像しながら読むのに適した教材と言える。本単元では、間の取り方を変えたり、
声色を変えたり、いろいろな音読をしていく中で、イメージにぴったりの表現を見
付けながら読みを深めていく。また、動作化をすることで、より登場人物の様子に
注目して想像を広げていく。どうしてそう読んだのか繰り返し問うことで、子ども
たちは叙述に選んで改めて考え、叙述とイメージの往還を図りながら、どっぴりと
物語の世界に入り込んでいくであろう。このように、音読を楽しみながら自分の音
読が変わっていくことを実感し、想像を広げながら読むことの面白さに気付き、進
んで読書をしようとする姿が育つであろうと考え、この単元を構想した。

今の子どもの姿

本学級は、読書が好きな子どもが多く、読書の時間や担任の読み聞かせをととも
楽しみにしている。「おおきなかぶ」では、繰り返しの構造に関心を持ち、リズムを
楽しみながら音読した。また「けんかした山」や「くじらぐも」では、音読したり動作
化したりすることを手掛かりにして場面の様子や人物の行動、心情を想像しながら
物語を楽しんで読む活動を経験した。大きな声で読むだけでなく『元気よく』と書
いてあるから、大きな声ではきはき読みたい」「何の歌を歌っているのかな。歌
っている様子が伝わるように楽しく読もう」といった叙述に即した意見や登場人物
の心情に踏み込んだ意見も出始めた。また、友達と意見を出し合うことで読みが
深まっていくことを実感している子どももいる。子どもたちは、今、音読の楽し
さを感じ、もっとたくさん作品を読みたいという思いが高まっている。

きいている人に きもちがったわるように とうじょう人ぶつに なりきって よもう

本時の授業（6／9）

- 1 日時 令和6年11月26日（火）9:45～10:30
- 2 場所 1年花組教室
- 3 目標 友達と意見を交流する中で、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

本時における「学びに向かう力」が涵養されている姿

- 友達と対話する中で、納得のいくまで考え抜いて自分なりの考えにたどり着こうとしている姿。自分の思いや考えを伝え合おうとする姿。
- 読むことの楽しさを感じ、自分の思いや考えを持って、読みを深めている姿。

学習活動	1 これまでの学習を振り返る。	2 音読発表会に向けて、読み方をよりレベルアップさせよう。	3 本時を振り返る。	場面	単元の評価規準
予想される子どもの意識の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・場面ごとにチロの行動や気持ちを考えながら、読み方を工夫してきたよ。 ・これまで話し合ってきたことをまとめて、音読発表会を開こう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チロが慌てて言い返す様子が伝わるように「そんなことないよ。」は地の文を読む人と重ね読みをするといいね。 ・やまびこのところは、だんだん声を小さくしていくといいね。読む人数を変えていってはどうか。 ・「口を大きく開け」と書いてあるから、ここのせりふは口をしっかりと開けて、はきはき読もう。 ・「ぼくのこえがとんでった。」のところは、うれしい気持ちもあるけど、やっぱりまだ不安な気持ちもあるよね。 ・遠くのおばあちゃんに届くように、大きな声で、しっかりと間をあけてゆっくり読もう。お城山の向こうまで届くように読んでみよう。 ・4の場面は、2の場面よりも、自信を持っておばあちゃんに呼び掛けているよ。みんなで息を合わせて大きく読もう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と話し合って、協力して読み方の工夫を考えたことができたよ。 ・友達のアドバイスを聞いて、音読をレベルアップさせることができたな。 ・実際に声に出したり動きを付けたりすると、チロの気持ちをもっとよく分かるようになったな。 ・音読発表会が楽しみだ。お家の人にチロの様子や気持ちがよく伝わるようにもっと練習しよう。 	出合い	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習のゴールを決め、自分のめあてを設定することで単元の見通しを持ち、これからの学習に前向きに取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ● 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えようとしている。【思考・判断・表現】
指導（○）と評価（●）	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで学習してきたことを整理して、本時の活動を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 叙述を基にイメージを広げることができるように、子どもが考えた読み方の工夫について共感したり、どうしてそのように読もうと思ったのか問い返したりする。 Critical Thinking ○ 動きながら立ち位置なども考えられるように場の設定を工夫する。 ○ これまでの学びを想起したり、生活経験と関連付けて考えたりしながらも、叙述に基づいて話し合うことを忘れないように言葉を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達との交流がどうだったか、前時よりもよくなった点は何かを意識させて振り返りを行う。 ● 友達と意見を交流する中で、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができたか。 【様態・発言】 	追究	<ul style="list-style-type: none"> ● 内容の大体を捉え、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読しようとしている。 【知識・技能】 ● 友達と意見を交流する中で、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しようとしている。 【思考・判断・表現】 ● 会話や行動などの描写を手掛かりにして作品を読むことの楽しさを味わおうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
				振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学びから、音読することの楽しさを感じ、これからも進んで読書をしようという思いを持っている。 【主体的に学習に取り組む態度】